

横浜市立飯田北いちょう小学校 2020年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導に力を入れ、学力の向上が図られ、さらに思いや考えを伝え認め合う力を全教育活動を通じて育みます。 ・多文化共生の学校づくりを地域・保護者と共に推進します。一人ひとりの違いを認め大切にします。 ・基本的な生活習慣の定着に全校で取り組みます。(あいさつ・返事・復習・MIM) ・地域行事に積極的に参加したり、地域の方から学んだりすることを大切にします。 ・命や心身を守るための指導や防犯対策を積極的に推進します。 ・教職員が互いに切磋琢磨し、チーム飯田北いちょうとして一丸となって取り組む職場にします。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	個々の課題に応じたきめ細かい支援により、言語活動や読書活動等の充実を図り、語彙力や表現力、基礎学力の向上を目指す。	① 週2回、朝の学習、週1回の読書活動の時間の確保。宿題の徹底。きめ細かな少人数指導の工夫を通して、確実な基礎学力の定着に努める。 ② MIMを導入し、日本語の定着・基礎学力の定着の一助とする。また、児童の日本語理解のアセスメントに努める。
担当	研究部	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

- ・全体的には、学力は横浜市の平均的より低い傾向にあるが、昨年より大変な伸びを見せた学年がある。
- ・勉強が好きと答えた子どもが46%で、市の平均37%より高い。
- ・学校図書館に行くのが好きな子どもが50%おり、市の平均40%より高く、1日当たりの読書時間も1時間以上と答えた子どもが21%おり、市の平均18%より高い。朝読書や日頃からの読書指導の賜物といえる。
- ・話したり、聞いたりして、人とかかわることが好きと答えた子どもが62%おり、市の平均56%より高い。外国人の先生や友達とコミュニケーションをとることが楽しいと答えた子どもは58%で、市の平均54%より高く、本校が柱にしている多文化共生が根付いていると考えられる。
- ・授業では自分の考えを発表していると答えた子どもが40%で、これは市の平均の27%より、大変高い。自分の考えや思いを伝える授業の実践を心掛けている先生方の支援によるものである。
- ・塾に通っている子どもは34%で、市の平均44%より低い。学校の日頃の授業でいかに身に付けさせるかが問われる。
- ・授業でノートを丁寧に工夫して書いている子どもは51%で、市の平均41%よりかなり高い。書いたことが、自分の身に付いているのかどうか等確認しながら授業を進めていく必要がある。

(2) 教科学習の状況

国語科 全体では学力層Dが、42%を占める。21%,28%という学年もあり学年によって特徴がある。昨年より10%ほどD層が減少し、底上げが図られた。

算数科 全体では学力層Dが、43%を占めるが、昨年より多少向上した。22%という学年もあり学年によって特徴がある。

社会科 では学力層Dが、47%を占める。昨年より10%ほど向上した。

理科 では学力層Dが、41%を占める。昨年(41%)とほとんど同じである。理科に関する映像や本を自分から進んでみてみようと思う子どもが市の平均を10%上回る学年もあり、理科の観察・実験が好きな子どもは市の平均と同様どの学年も高い。

(3) 経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)

・国語・算数科において、好きだと答える%とよく分かると答える%が市の平均より低くなるのが、これまでより向上し6年生からとなった。一人ひとりの課題にそって少人数指導を活かしながら丁寧に指導してきたことの成果だと感じる。国語科において、めあてや相手に沿って分かりやすく話している、と答えている%は、5年生まではとても高い。外国への関心、外国人とのコミュニケーションの楽しさ感じている%は変わらず市の平均より高い。学校は安心できる場所だと答えた子どもの%も、61%と市の平均より高く、きめ細かな指導ができているからと考えられる。話したり聞いたり人と関わるのが好きな子どもの%も市の平均より数%高く、話し合い活動の充実し心掛けてきた成果がうかがえる。

・1日に携帯電話等でインターネットやメールを見る時間が3時間以上の子どもが21%おり、市の平均8%をかなり上回る。また、30分以上見る子どもが70%おり、市の平均40%を大幅に上回る。放課後の過ごし方、携帯電話の使い方等について保護者を巻き込んで指導していく必要がある。

3 2020年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 自分にとって大事なことや知りたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉える。
- 伝えたい事柄が相手に伝わるように話したり、相手の発言を受けて話をつないだりする。
- 1日10分、復習プリントに取り組むように指導する。

2 学年

- 自分や相手にとって大事なことを聞き、話の内容を正しく理解する。
- 自分の考えをもち、それらを自分の言葉や文章で表現できるように指導する。
- 1日20分以上、自分から進んで学習に取り組めるように指導する。

3 学年

- 要点は何かを考えながら、話を聞いたり文を読んだりできるように指導する。
- 各教科において、自分の意見を理由や根拠とともに述べるように指導する。
- 1日30分、その日の学習の復習をするように指導する。

4 学年

- 各教科で説明する文章、記録・報告する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 相手の考えを取り入れながら、自分の考えを述べて話し合うように指導する。
- 1日40分、今日の復習等に取り組むよう指導していく。

5 学年

- 教科に応じて体験的な活動を取り入れ、実感を伴った学習内容の理解を目指し、基礎学力の定着を図る。また、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 1日50分、今日の復習、自主学習に取り組むよう指導していく。

6 学年

- 各教科等の学習でこれまで身に付けた様々な力を総合的に生かすことができるように基礎基本の指導を徹底する。また、話し合いの場面を多く位置付け、自分の意見をしっかりともち、自信をもって表現できるようにする。
- 1日1時間、自ら課題意識をもって学習に進んで取り組めるよう指導していく。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行う。
- 子どもに応じた分かりやすい情報発信をするなど、言語環境の整備を行う。